

2-1 実践基礎～保育という仕事～

講師：東京統括事業本部
東江幸子



子どもの発達保障と 保育所における子育て支援

新人研修

保育所の社会的役割

発達の特徴とは

一人ひとりの発達過程知り、それに応じた援助をしていくことが重要である

発達の特徴

- ・生きる力の基礎を培う ……生涯にわたる生きる力の基礎が培われる
- ・人への信頼感が育つ ……愛され信頼されることにより、情緒が安定する
- ・環境へのかかわり ……信頼できる大人が側にいるだけでみずから行動する
- ・子ども同士の関わり…おもちゃの取り合いをする中で、自分と同じ要求する友だちの存在を知る
- ・発達の個人差 ……一人ひとりの心身の発達の個人差は大きい
- ・あそびを通して育つ…仲間との関係を育み、その中で個の成長も促される



発達段階 (めやす)

東京統括・東江

一人ひとりをたいせつに

第2反抗期 14歳

6歳

日課が規則正しくなり、見通しが持てる
家庭と保育所だけだったが友だちの家
真ん中を捉える

右・中・左 大・中・小
前・後・ここ 昨日・今日・明日

跳び箱・なわとび

話し言葉だけでなく書き言葉を使用

新しい発達のカ...3次元の形成
生活時間と3つの世界
3次元の認識
新しい交流の手段

3.4歳

発達の節目...2次元の調整の獲得・自我の充実期

「～しながら～する」

自制心の形成

ケンケン・はさみの使用・○を閉じる

我慢することができる

おもちゃを友だちにかせる

寂しいけれど留守番をする

第1反抗期

自我の拡大期

1歳半

発達の節目...自我の芽生え

歩く

道具を使う

「～ではない～だ」

言葉の獲得

物の取り合い

噛みつき

夜泣き

感受性の高まり... 風の変化・音に違い・匂い、味の違いなど敏感になる

○を描き始める

10か月

這うようになる
後追いをする

4か月

新しい発達のカ

・首が座る

・あやすと笑う

誕生

五感の発達

五感の発達・・・一つひとつ独立しているのではなく、脳も含めてお互いに密接にかかわり、影響を与えながら発達していくもの

聴覚

胎児の頃(20週)血液の流れる音、28週過ぎると外の音や声が聞こえるようになる

視覚

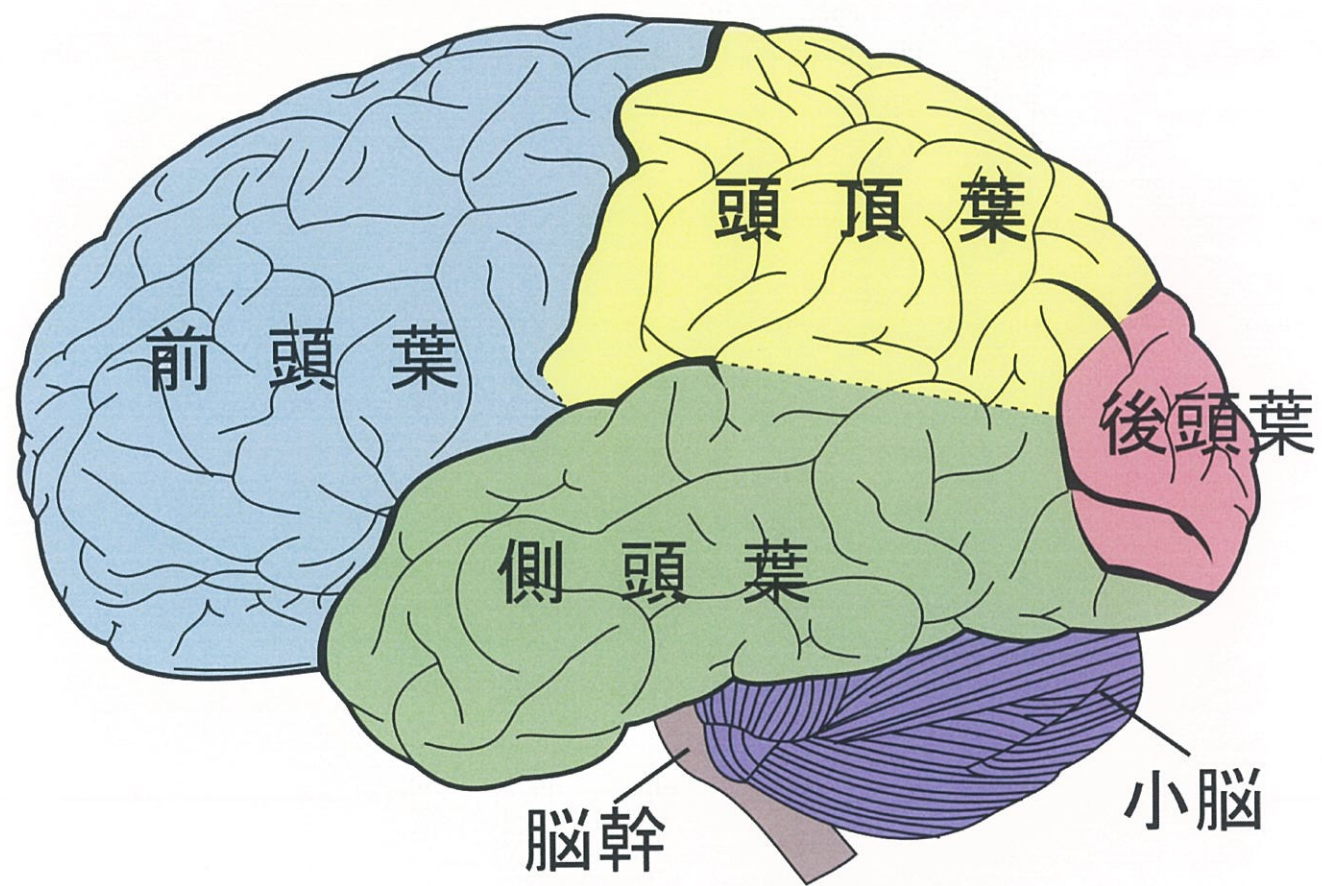
目が出来るのは妊娠4～5週、18週には神経がつながる。20週後半には外の明るさに反応する。 新生児0.02程度



臭覚 20週には舌や口腔内の感覚ができているので
味を感じる

味覚 28週には、甘いと苦いがわかる、甘いものを
好むのは本能的

触覚 8週で指しゃぶりのような動作をするほど、触覚
は原始的なもの。手が口に触った感覚が脳に
伝わり、再び脳が「手を動かす」という指令を出
し、触角 → 脳 → 運動 → 脳 という神経回路が
発達する



乳児保育の理念

- ☆ 生まれながらにして持ちそなえている五感を大切にし、感性を育て好奇心や探究心を培う
発達過程のなかで知力になる
- ☆ 一人ひとりの最善の利益を保障するなかで、
 - ・ 特定の大人との愛着関係を築く
 - ・ 生活リズムを整える
 - ・ 基本的生活習慣の確立
 - ・ 友だちとの関わりのなかで自我の芽生えを養う
- ☆ 保護者との信頼関係を築く



☆愛着行動、基本的信頼感、自己肯定感が不可欠

子どもの欲求(要求)丁寧に応答する行為と柔らかい感触と子ども自身の自由な探索活動の保障がなければ、愛着関係は育たない。

アタッチメントする他者が日常的にすることで、不安や欲求不満があるときに、その人に寄り添えることができるため、子どもの心の中にその人への信頼感が育ち、やがて他者にも信頼感を身に付けていく。自分は無条件でありのまま愛されているという感覚になる



乳児保育の実際

乳児保育の高まりに応える(利用率H31・48.1%)

待機児童の増加・・・87.9% * ここでいう乳児は低年齢児も含む

└─<乳児12.2% 1・2歳児75.7%>

認可保育所に希望しながら入園できない子ども

認可保育所・・・児童福祉法児童福祉施設最低基準を満たしている保育所

公立保育所

社会福祉法人立私立保育所 家庭的保育事業、小規模保育所、

院内保育所

幼保連携型認定こども園 事業所内保育施設

企業主導型保育所

認可外保育所

ベビーホテル

地方単独保育事業



東京都認証保育所



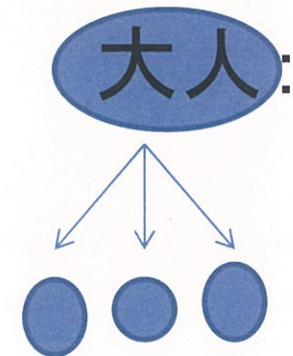
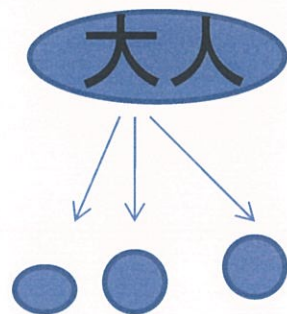
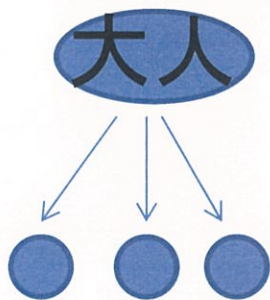
愛着関係と担当制

愛着関係とは

特定の大人との関係を築くことにより、安心して生活できるようにする

保育所の場合は

例えば 0歳児クラス 9名 保育士 3名





生活リズムー1

■生体リズム

一日25時間のリズムをもっている。体温も朝方最も低く、昼過ぎから夕方にかけて高くなる。地球の24時間のリズムの同調因子の最も影響を受けるものは光による昼と夜の周期であると考えられている。

■睡眠覚醒リズム

人は当たり前、暗くなれば眠り、太陽の光で目がさめるようにできている。日中太陽の光をサンサンと浴びてしっかり覚醒する。夜は電気を消して真っ暗い中で睡眠をとる、こうした外部環境からの自然な刺激により「睡眠覚醒リズム」はつくられる。新生児の全睡眠におけるレム睡眠の割合は50%

■生体リズムの発達と生活リズム

生後8週くらいまでは、空腹になると目覚め授乳で満腹になると眠るという昼夜関係ない。6ヶ月から7ヶ月になると眠りが夜にまとまりはじめ、一日24時間のリズムになっていく。

生活リズムー2

生活リズム ……睡眠・覚醒リズムと共に授乳・離乳食の与え方を工夫し、
入浴・散歩など生活にアクセントをつけたり、帽子、エプロン、敷物など
つけて、気持ちにもアクセントをつける

活動から活動への移行がスムーズにいくように援助しながらさまざまな
言葉がけによって不快の状態から快適な状態へ預期する

○見通す力をつける

子どもの行動の評価をして行動に区切りをつけることがやがて一日の生活
が規則的に進められる身体でリズムを身につけることにつながる。

○生活が主体的になる

乳児クラスは生体リズムに調和した生活リズムを考えて保育をしていく。
生活リズムの獲得によって、子どもが自分の生活に主体的に立ち向かう
姿勢をつくる

○健康的な生活ができる

保育所の日課＜登園から降園まで＞

日課・・・■年齢，月齢によって異なる ■家庭の生活リズムから無理なく園のリズム
■季節によっても変えていく に移行できるように

乳児の生活 生命の維持や情緒の安定 あそび

8:30 → 9:00 → 9:30 → 10:15 → 10:45 → 11:30 → 12:30 → 14:00 →
15:00 → 16:30

登園	おやつ	睡眠	目覚め	離乳食	遊び	睡眠	機嫌よく目覚め
おやつ	オムツ交換						
あそび	授乳	オムツ交換	降園				

* 必要に応じて 着替え

基本的生活習慣

睡眠・・・SIDS(乳幼児突然死症候群)

うつ伏せ寝を避け、睡眠時にチェック表(5分おき)利用

特に入所して間もない頃の保育は複数の目による観察と注意



機嫌、顔色、皮膚の状態、体温、泣き声、全身症状、仰向けで寝てるか
寝具のかけ方は大丈夫か、嘔吐はしていないか、まわりに玩具はないか
一人ひとりが安心して休息をとれるように生活リズムに即し、環境を整える

食事・・・楽しい雰囲気の中で、手やスプーンなどを使い、自分で食べようとする
気持を育てる。離乳食を与えるときの配慮を考える

排泄・・・おむつ交換時には声かけをする。一人ひとりの排泄の間隔を重視

着脱・・・丁寧に関わっていき、意欲を育てる

清潔・・・保育者が一緒にやりながら、習慣づけていく

次は、

2-2 実践基礎～保育という仕事～

をご覧ください。